

料金後納
郵便

Business Report 2015

平成27年9月期 第3四半期業績のご報告 (平成26年10月1日～平成27年6月30日)

株式会社 **日本マイクロニクス**

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-232-711 (フリーダイヤル)

まずこちらを

開く 濡れている場合は乾かしてから
はがしてください

証券コード：6871

■ 株主・投資家の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第3四半期連結累計期間において、半導体市場では、スマートフォンやタブレット端末向け各種デバイスの需要が市場を牽引しました。FPD市場では、スマートフォン向けの中小型液晶パネルやテレビ向けの大型液晶パネルの需要が底堅い一方、価格面での厳しい環境から設備投資等では力強さに欠く状況が続きました。

このような状況の下、当社グループは、当連結会計年度を初年度とし2017年度を最終年度とする新中期経営計画『Challenge17』を促進し、収益性にこだわりつつ、顧客満足度の向上や新規事業・製品への積極投資等の実行に努めてまいりました。第4四半期においても、引き続き、新中期経営計画達成に向けた取組を進めてまいります。

なお、この度、当社株式が貸借銘柄に選定されましたのでお知らせいたします。選定日は、平成27年7月1日(水)で、同日の売買分から実施されております。今回の貸借銘柄への選定は、当社株式の流動性及び需給関係の向上を促進し、売買の活性化と公正な価格形成に資するものと考えております。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



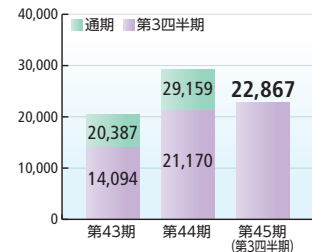
代表取締役社長 長谷川 正義

平成27年9月

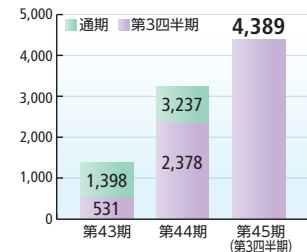
■ 財務ハイライト

(平成26年10月1日～平成27年6月30日)

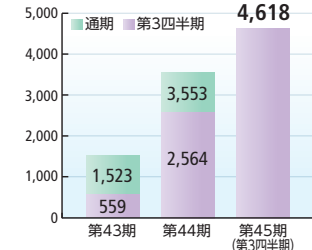
■ 売上高 (単位:百万円)



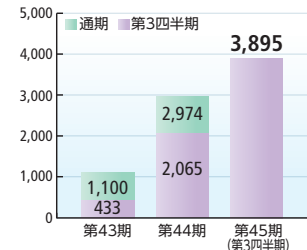
■ 営業利益 (単位:百万円)



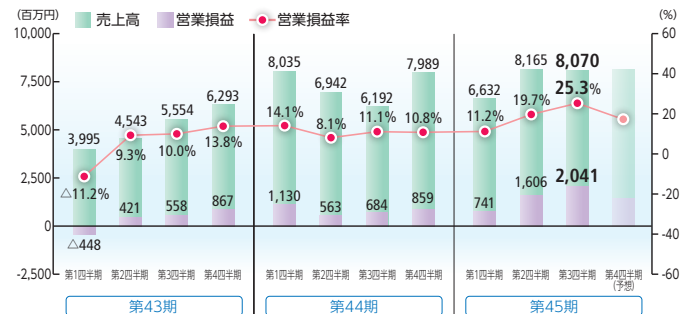
■ 経常利益 (単位:百万円)



■ 四半期(当期)純利益 (単位:百万円)



■ 四半期業績推移と予想



■ 株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月末日
定時株主総会	毎年12月に開催
期末配当金受領株主確定日	9月末日
定時株主総会の基準日	9月末日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-232-711 (フリーダイヤル)
単 元 株 式 数	100株

■ 二次電池battenice®研究開発体制の変更

当社は、二次電池battenice®に関して、平成22年10月より進めてきたグエラテクノロジー株式会社(以下「GT社」)との共同研究開発体制を終了し、大学等との新たな研究開発体制に移行することといたしました。

これまで、GT社は目標仕様達成に向けた「基礎性能向上」、当社は「量産化技術」について研究を進めてまいりましたが、目標仕様の達成において、当社の今後の開発計画に支障をきたす可能性が出てまいりました。また自己放電が大きい等の技術的な課題が存在し、その解決が容易でない可能性があると考えに至りました。

そこで、当社はGT社以外のルートによる基礎性能向上のための研究を強化することが必要であると考え、複数の大学との共同研究を開始いたしました。今後、当社は大学等と連携しつつ、battenice®の目標性能の達成及び課題解決のための研究開発を継続するとともに、battenice®の特長を活かした用途での製品化を目指してまいります。

なお、当社とGT社との契約は、共同研究開発契約から、GT社が保有する特許などの当社に対するライセンス等に係る特許・ノウハウライセンス契約へ移行いたしました。

■ 二次電池battenice®技術的課題

(1)目標性能に対する達成状況

目標仕様	達成状況	
電圧	1.5V	単層シートで1.5V。
電力密度	500Wh/L	基材層を含めると22Wh/L。 (但し、充電層単独では320Wh/L。)
出力密度	8,000W/L	基材層を含めると680W/L。 (但し、充電層単独では10,000W/L。)
サイクル寿命	100,000回	ガラス基材において、10万回の充放電動作を確認。なお、10万回動作後では電力密度が40%程度まで低下しております。
動作温度範囲	-25℃～+85℃	-10℃～+85℃までの温度範囲での動作を確認。 (但し、使用条件によっては電力密度が低下します。)

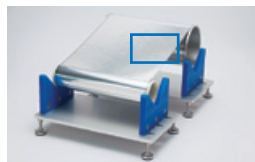
(2)その他の技術的課題

技術的課題	内容
自己放電率	ガラス基材において、6時間放置で50%程度の残存となっております。
充放電動率	充電エネルギーに対する放電エネルギー量の割合は50%～85%となります。なお、充放電動率は充放電の条件に依存します。
積層技術	シートの積層によるサイクル寿命の低下が観察されております。なお、積層技術に関するその他の課題の有無について調査しております。

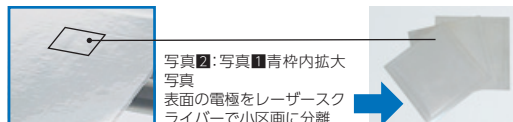
上記(1)及び(2)に記載した数値は、battenice®の現状の達成度を示すもので、必ずしも同一サンプルのデータではございません。

■ 二次電池battenice®試作開発ラインの進捗状況

ロール・ツー・ロールの設備を導入し、ロールシートに二次電池を形成する環境を構築しました。これまでシートで得た性能をロールシートで実現するため、プロセスの最適化を行っております。(上で示したデータは、試作開発ラインで製造したbattenice®の特性データではございません)。下図のように切り出したシートを多数製作できるようにになりましたので、積層技術の開発を進めてまいります。



写真①: ロール外觀写真
幅350mmのロールシートにbattenice®が形成されたもの



写真②: 写真①青枠内拡大写真
表面の電極をレーザーアスライバーで小区域に分離

写真③: 切り出した小片シート状のbattenice®

郵
便
は
が
き

■ 営業の概況

(平成26年10月1日～平成27年6月30日)

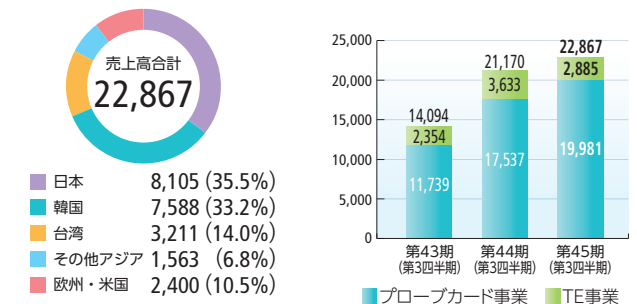
プローブカード事業

モバイルDRAM用MEMS型アドバンスプローブカードや、NAND型フラッシュメモリ用プローブカードに対する高水準な需要を背景に、好調に推移しました。利益面では、高い生産稼働率や業務効率の改善等が営業利益率を押し上げました。

TE事業

半導体検査装置は前年の設備投資の反動を受け、低水準の売上となりました。LCD検査装置及びプローブユニットも、パネルの需要は底堅いものの、売上は低調に推移しました。

■ 地域別売上高構成比(単位:百万円) ■ セグメント別売上高(単位:百万円)



■ 通期業績予想 (平成27年8月6日修正)

売上高	31,000百万円	経常利益	6,150百万円
当期純利益	5,550百万円	1株当たり配当金	50円

※普通配当45円+創業45周年記念配当5円